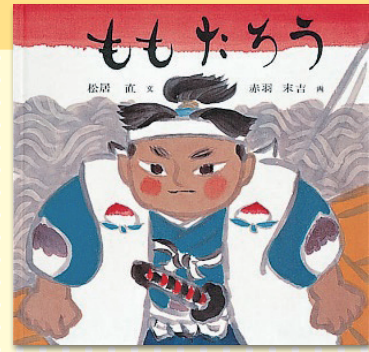


活動案例

ももたろう (絵本)




この活動案の特徴

- 主に5歳以上から小学校3年生位までの子どもを対象に想定した活動です。
- クイズ、工作、ゲームもあり、小さい子どもでも飽きずに参加できます。3言語以上であれば、よりゲームが楽しくなります。
- 日本の有名な昔話の1つであり、道徳の授業等で題材になることもあります。「中学道徳2」(光村図書出版)に掲載されています。他の言語版も見つけやすいです。

A 準備

(1) 参加者	
(2) 使用言語	
(3) 場所	
(4) 日時	
(5) スタッフ	
(6) 使うもの	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵本『ももたろう』(絵：赤羽末吉、作：松井直、出版社：福音館書店) ● 絵本『おめんです』(作・絵：いしかわこうじ、出版社：偕成社 ※ビックブックもあり) ● BGM『ももたろうさん』(作詞：不詳、作曲：岡野貞一)の音源(必須ではない) ● 動物などのお面作りの材料と道具 ※ここでは「おめんワークボックス」(作：tupera tupera、出版社：コクヨ)を使用 ● きびだんご：参加者数×言語数を用意 ※通信販売で購入可能。ハラール対応のものもある。様々な包装や味のものがあるため、ゲームの際、言語別に異なる種類のきびだんごにするとより楽しい。
(7) その他注意することなど	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの年齢に合わせて、お面作りの材料や道具を準備する。小さい子どもが多い場合は、「輪ゴムをつける」「シールを貼る」など、簡単な作業のみをさせるようにする。 ● きびだんごの材料と参加者のアレルギーの有無について確認する。食べるときは子どもたちの様子に留意するよう、保護者や支援者に伝える。

時間の目安	活 動	話すこと、すること(必要に応じて、通訳する)	補足・注意点
0:25	⑤お面作り	<p>お面がたくさん出てきましたね。じゃあ、これからみんなでお面を作りましょう。いろいろなお面があるので、仲良く選んでください。</p> <p>※以下、手順を見せながら話す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに、お面をひとつ選びましょう。 2. それから好きなシールを選びます。目や鼻や口やひげがあります。それをお面に貼りましょう。 3. 作ったら、顔につけてください。みんなで写真を撮りましょう。 	<p>お面作りに使う材料を、机などに並べておくとよい。</p> <p>全員が好きなお面を選べない可能性があるため、配布方法を工夫する。</p>
0:45	⑥ゲーム	<p>みなさん、今日は「ももたろう」のおはなしを聞きましたね。</p> <p>ももたろうは、犬・さる・きじに何をあげましたか？</p> <p>子どもたち：「(例)きびだんご」</p> <p>そうです。きびだんごです。ここにきびだんごがあります。おいしそうですね。きびだんごをもらうとき、犬・さる・きじは、何と言いましたか。</p> <p>子どもたち：「(例)ひとつください」</p> <p>そうです。「ひとつください」ですね。</p> <p>では、これから「ひとつください」を日本語と〇〇語で言ってみましょう。上手に言えると、みんなもきびだんごがもらえます。</p> <p>ここに、日本のももたろうさんと〇〇(国名)のももたろうさんがいます。</p> <p>2人から1つずつきびだんごをもらいましょう。</p> <p>日本のももたろうさんに言いましょう。</p> <p>ひとつください。</p> <p>日本のももたろう：「はい、どうぞ」</p> <p>〇〇(国名)のももたろうさんに言いましょう。</p> <p>(〇〇語で)ひとつください。</p> <p>〇〇(国名)のももたろう：「(〇〇語で)はい、どうぞ」</p> <p>※上記のやりとりを何度か繰り返し、各言語での言い方を教える。</p>	<p>絵本の該当ページを見せながら質問する。</p> <p>きびだんごを見せながら</p> <p>ここでは2言語を想定しているが、3言語以上でも同様にする。</p> <p>初めに、やり方の手本を見せる。</p> <p>言語別にブースを分けて、各ブースに1回ずつ行くように誘導する。</p> 

時間の目安	活 動	話すこと、すること(必要に応じて、通訳する)	補足・注意点
		じゃあ、今から日本と〇〇(国名)のももたろうさんにきびだんごをもらいに行きましょう。	子どもたちが活動している間はBGMを流しておく楽しい。
0:59	⑦終わりのあいさつ	きびだんごをたくさんもらえましたか？ 食べるときは少しずつ食べてくださいね。 今日はこれで終わります。また会いましょう。	子どもたちの保護者や学校の先生などがいれば、アンケートを配布する。

ヒント

配布物が多いため、子どもたちがけんかしないように選ばせたり、手際よく渡したりする方法を工夫しましょう。

特に、お面作りは大人の手伝いが必要です。ぜひ、子どもたちの保護者に活動をサポートしてもらいましょう。

ゲームは大人も一緒に楽しめます。実際の活動では、子どもたちの方がすぐに外国語のフレーズを覚えて話せるようになり、大人が最後まで苦戦している様子が見られました。

なお、昔話や民話は作者不詳のため、物語そのものには著作権の問題がありません。そのため、オリジナルの紙芝居・絵本を作成したり、翻訳したりすることが容易です。日本や地域の文化を理解するためにも良いです。ただし、昔話や民話を題材にして他者が制作した絵本等には、制作者の著作権がありますので、注意してください。

©多言語読み聞かせ活動と著作権について ⇒「はじめての多言語読み聞かせハンドブック」p.14

